大同の石佛

寫眞と生活

岸田日出刀

われわれ日常の生活から，寫眞というものをなくしてしまつたら，その生活がどんなに味氣なくさびしいものになつてしまうだろうか．朝起きる，まず新聞をみる，いろいろな報道記事も，そこに掲げられたいくつかの寫眞によつて，その記事に關連するわたくしどもの興味と關心とは倍加される．もつともこれはと思うようないい寫眞はめつたにはないが．

カメラというものが發明されてからざつと一世紀であるが，カメラをもつようになつてからの生活と，それをもたなかつた以前のそれとの間には，たいへんなちがいがある．寫眞のなかつた時代の人たちは，自分自身の肉眼でみられるものだけしか見られなかつたのだが，寫眞をもつようになつてからは，肉眼では決してみられない地球の反對側や世界の隅々での出來ごとや風物をも，いながらにしてありのままに見ることができるようになつた．前者の生活がいかに狹く，貧しくそして後者のそれがいかに廣く豐かなものであるか，いうまでもない．

カメラが發明されてから，われわれ人間は天與の肉眼の他に，もひとつ「カメラ眼」という重寶な人工の眼をもつことになつたわけだ．肉眼はわれわれの肉體の一部に固定の位置を占め，肉體から離れて勝手の行動はできないが，人工の眼である「カメラ眼」は，世界のいたるところどこにでも行くことができるのだから，われわれは千手觀音の手以上に數限りない眼をもつているということになる．この無數のカメラ眼がキャッチする千種萬樣の寫眞をみることによつて，われわれの知識はどこまでも廣くそして深く豐かなものになつて行くのだからありがたい．「百聞は一見に如かず」

第 2 巻　　**5 月 號　目 次**　　第 5 號

“寫眞の應用” 特集號

口 繪

カメラと構成美……岸田日出刀…… 1
カメラと工業美……星野　昌一… 2,3
立體角投射カメラ……渡邊　　要…… 4

特集　寫眞の應用

寫眞と生活……岸田日出刀…… 5
立體角投射カメラ……渡邊　　要…… 7
寫眞と工業美……星野　昌一……13
天然色寫眞……菊池　眞一……18
地上寫眞測量とその應用……丸安 隆和 大島 太市……24
寫眞機用シヤッター……植村　恒義……28

實驗ノート

寫眞複寫メモ……島畑英太郎……33

技術史ノート

寫眞の發達……生產技術史研究室……34

隨　筆

無機植物……岡　宗次郎……23

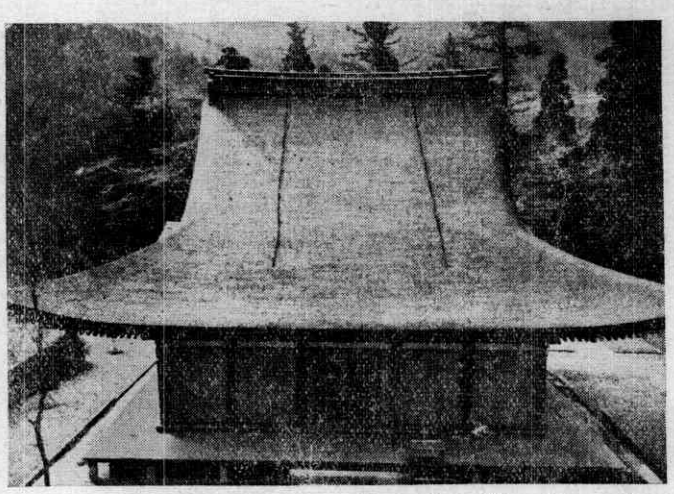
速　報

25 イオン交換樹脂による海水の軟化(山邊)……17,
26 熔融金屬の流動係數と摩擦係數(千々岩)……17,
27 酸素電極を單極とした熔融鑛滓電池の起電力の測定（松下，森）……22

生研ニュース……36
編集後記……36

とは，ありふれた言葉だが，一見しようにも一見しようのない事物を，端的に一見させてくれるのが寫眞である．われわれの生活に寫眞のあることを，まず大きく感謝せずにはいられない．

カメラ眼がキャッチした對象は，感板の上に映像し，現像され印畫紙に燒きつけられて，はつきりとその姿を表わす．この映像を廣く他へ傳える手段として印刷が應用される．だから寫眞の効用は印刷術の發達に比例して增すことになり印刷術の發達はまた逆に寫眞の發展を促す要素ともなることは，過去の例でも明らかである．



寶生寺　灌　頂　堂

カメラが發明されて，まずそれが主として向けられたのは肖像だつた．肖像寫眞は今日でもりつぱな意義と價値とをもつことはいうまでもないがこの肖像寫眞の段階を越して，次々に，新しい分野が寫眞の領域にひらけてきたし，更にそれからそれへと新しい發展がくりひろげられつつある．

廣告に寫眞を應用することによつて，いちじるしくその効果をたかめることができる．適切な寫眞を巧みに配することによつて，廣告としての美的表現が增すとともに，またそれだけ廣告としての効果が大きくもたらされる場合がすくなくない．

繪そらごとというわけではないが，繪には故意の省略があり，變歪があり俗にいえばウソがある——これが繪の生命なのだが——しかし寫眞にはウソがない．寫眞はどこまでも眞實を傳えるものであるから，それに對するものは，眞實なものを見きわめようとする衝動にかられて，倦かずにそれに眺めいるであろう．まずいポスターは見ていられない．だが寫眞廣告は，たとえその寫眞はあまりうまくなくても，それが眞實を表わしている點で人の眼を引きつけ，肉眼はカメラ眼のとらえた對象に無意識にすいよせられる．

戰後「觀光」のことがやかましくいわれてきた．これは風光にめぐまれたわが國として當然のことだが，この「觀光」のことに關連して觀光寫眞というものが大きくクローズ・アップされる．

また記錄寫眞や報道寫眞も，寫眞の社會性で極めて重要の地位を占める．文字による記錄や報道の重要さはいうまでもないが，これらの記錄や報道に生命を與えるものが寫眞である．寫眞以上に記錄と報道の使命を潑剌と果しうるものに映畫があるが，寫眞は映畫とはまた別の使命なり價値がある．

寫眞と記錄ということについて，わたくしは日頃ひとつの夢をもつている．それは寫眞日記である．文字によるその日その日の記錄の代りに，寫眞をもつてしようというので，カメラの機構や機能が今からもつと進み，その取扱いもずつと簡便になり，現像のこと燒付けのことなど格段と進歩すれば，この夢も案外たやすく實現するのではあるまいか．日記をつけたことのない無精者の考えそうなことかもしれないが，できたらたしかにおもしろいし，文字による日記よりもずつと造形藝術的であることだけはたしかであろう．

煉瓦とケヤキ（東大舊土木科教室）

寫眞の日記だと感想がのこせないというかもしれないが，その日の出來ごとや路上の所見などを，1,2,3 枚の寫眞にまとめてあればその寫眞をあとで眺めることにより，それを撮つたときの自分の心の動きなども，印畫の上によくよみとることができるであろう．いろいろな會に出席する，パチッとやれば列席者の顏もその場の空氣もちやんととれてしまうのだから世話はない．

記錄寫眞や報道寫眞でも，美はその中に表現できよう．美は藝術寫眞だけにあるのではなく，學術寫眞の中にすら美はいくらでも織りこむことができる．

（口繪寫眞並びに本篇の挿入寫眞はすべて著者の撮影によるもの）

×　　×　　×